■葉いもち

■葉いもち（ずりこみ）

■白葉枯病

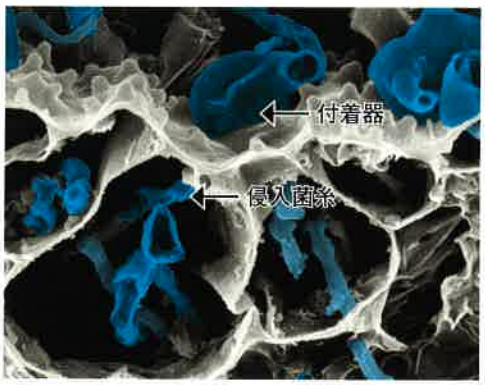
■もみ枯細菌病

その効き目、歴然。

オリゼメート粒剤は、
いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病防除に威力を発揮。
ユニークな作用性でイネの病害抵抗性を誘導し、
いもち病と各種細菌性病害をシャットアウトします。

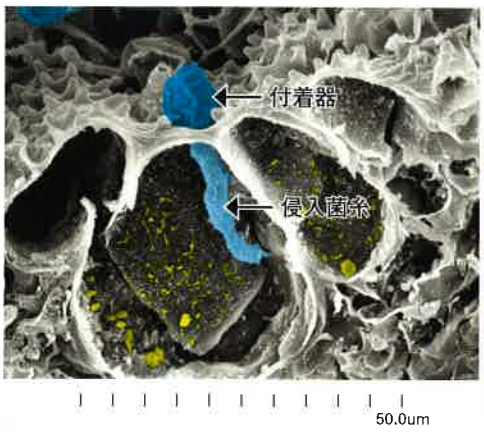
オリゼメートの処理による いもち病菌の伸展阻害

オリゼメート無処理区



■付着器から侵入菌糸が伸展し、
細胞内に蔓延している。

オリゼメート処理区



■侵入菌糸は侵入初期に伸展を阻害されている。
また、細胞が壊死し、細胞内容物が崩壊することにより、
顆粒が形成されている。

■石川県農業短大　古賀博則教授撮影

Plant Defence Activator

ORYZEMATE

オリゼメート粒剤

農林水産省登録　第13243号

Plant Defence Activator　　農林水産省登録　第13243号

オリゼメート粒剤

ORYZEMATE

抵抗性誘導型殺菌剤

●有効成分含量：プロベナゾール8.0%
●包装：3kg　●毒性：普通物

1. 世界初の植物防御機構活性化剤（Plant Defence Activator）で植物の病害抵抗性を誘導して高い効果を示す、ユニークな作用性の殺菌剤です。
2. 稲いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病・穂枯れに優れた効果を発揮します。
3. きゅうり・レタス・キャベツ・ブロッコリー・はくさい・ねぎ等の細菌性病害に有効です。
4. 有効成分は根から速やかに吸収され、体内へ浸透移行します。
5. 効果の持続性に優れ、強い効果が長く続きます。
6. 各種薬剤耐性いもち病菌に対しても有効です。

■適用病害および使用方法

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	3kg／10a	移植時	1回	側条施用	2回以内（育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内）
		3～4kg／10a	葉いもちには初発の10日前～初発時 穂いもちには出穂3～4週間前 収穫14日前まで	2回以内	散布	
	白葉枯病 もみ枯細菌病		移植活着後及び出穂3～4週間前 収穫14日前まで			
	穂枯れ （ごま葉枯病菌）		出穂3～4週間前 収穫14日前まで			
稲 （箱育苗）	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5 ） 1箱当り20～30g	移植3日前～ 移植前日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する	
きゅうり	斑点細菌病	6～7.5kg／10a（5g／株）	定植時	1回	植穴土壌混和	1回
レタス 非結球レタス	腐敗病 斑点細菌病	6～9kg／10a			土壌混和	
キャベツ	黒腐病				全面土壌混和又は作条土壌混和	
ひろしまな	軟腐病				全面土壌混和	
はくさい			は種時又は定植時			
ピーマン とうがらし類	斑点病 うどんこ病	5～10g／株	定植時		植穴土壌混和	
ブロッコリー	黒腐病	6～9kg／10a			全面土壌混和	
カリフラワー	軟腐病					
わけぎ	軟腐病	6kg／10a	生育期 収穫35日前まで		株元散布	
あさつき		6～9kg／10a	土寄せ時 収穫30日前まで			
ねぎ		6kg／10a		2回以内		2回以内

※このチラシの記載内容は2011年4月現在の登録内容にもとづき作成したものです。

■オリゼメート粒剤の上手な使い方 ―いもち病を中心にして―

●体系防除

オリゼメート粒剤 ＋ **いもち用散布剤**（共同防除／個人防除）

●広域防除

市、町、村又は地域毎に一定の散布期間（葉いもち初発の10日前～初発時）にオリゼメート粒剤を全面散布する。
オリゼメート粒剤は、効果の持続期間が長いので、従来のいもち剤よりかなり早い時期（葉いもち初発前）に散布すれば葉いもちから穂いもちまで高い効果を発揮し、同時に白葉枯病・もみ枯細菌病も防除できます。さらに、いもち用散布剤を出穂期～穂揃期に散布する体系防除が有効です。

水管理は適切に

本剤は湛水状態（湛水深3～5cm）で播きむらのないよう均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間はそのまま湛水状態をたもち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また散布後7日間は落水、かけ流しはしないで下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

お問合せ／ご注文は

meiji Meiji Seika ファルマ株式会社
東京都中央区京橋 2-4-16
http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/

OZG-F1
K110730